



みなぎるスポーツの力で

釧路市体育協会

会 長 張 江 悌 治

平成 27 年度は釧路市体育協会創立 70 周年の節目の年であります。大正 6 年に結成された「釧路運動倶楽部」を前身として、その 29 年後の昭和 21 年に 9 団体が「釧路体育協会」の名称で結成し、以来 70 年。現在 38 団体、加盟会員数 1 万 9 千人を数えるまでの成長を遂げることができました。

今日の隆盛は、スポーツ振興に情熱を燃やした先輩皆様のご尽力によるものです。明るく豊かな市民生活の実現を目指し、組織の強化、スポーツの普及、競技力の向上、社会貢献活動などに取り組み続けた 70 年間。その歴史と伝統は重く、意義深いものであります。

少子・高齢の時代に迎えた節目の創立 70 周年です。今後は多様な視点からスポーツに対する関心や要望がますます高まる事が予想されるところであり、そのため当協会に寄せられる期待は非常に大きいものがあります。

そのため、スポーツ都市釧路の実現に向けて当協会のさらなる発展と飛躍をすべく、70 周年

を記念する各種の事業を行うこととしました。これには当協会員の結集による「みなぎるスポーツの力」が是非とも必要となる所です。

臨時及び定例の評議員会では、実行委員会を組織して推進に当たり、各加盟団体は率先して参加協力していただくこととなりました。

すでに座談会とスポーツ講演会は終了し、今後は 11 月 14 日（土）の記念式典並びに祝賀会の開催を頂点に、記念誌「七十年史」の刊行等、多彩な事業が実施されていきます。

おかげさまで多くの企業並びに市民の方々からご協賛を賜りましたこと誠にありがたく、当協会の存在や活動が広く市民の心に根付いていることを実感し心強く存じます。

創立 70 周年の意義ある時に、価値ある取り組みをみんなで誠実に果たしていくことは、スポーツによる街づくりに直結します。今後、さらなる大きな記念すべき節目である創立 100 年に向けて邁進していく決意であります。

スポーツ座談会

思い熱く、足跡を振り返る

スポーツ座談会が 7 月 31 日（金）釧路センチュリーキャッスルホテルで開催されました。

公務ご多用の蝦名市長はじめ、張江会長ほか種目団体を代表する方々にご出席いただき、前回の座談会から現在までの 20 年間の出来事についての座談となりました。

話題は、湿原の風アリーナ釧路の建設、厚生年金体育館の思い出、大会や合宿の誘致、女性のスポーツ参加拡大、スポーツによるまちづくり

の推進等々。

座談会メンバーはどなたも熱っぽく語り、これぞまさしく「みなぎるスポーツの力」。

張江会長は最後に、体協の先人皆様への感謝と今後への決意の言葉で締めくくりました。



平成27年度 釧路市体育協会表彰

功労賞に五十嵐孝治氏 (釧路体操連盟)



功 労 賞 いがらし こうじ 五十嵐 孝治氏 (64歳) 釧路体操連盟 理事長

五十嵐氏は、昭和49年から現在まで41年間にわたり連盟役員を務められました。連盟理事として審判業務に専念する傍ら体操競技の技術向上に当たられ、副会長在任中は大会誘致に力点を置いた組織体制の強化に取り組まれました。

その後、理事長として北京オリンピック体操競技帰国報告演技会の開催を実現するなど体操競技の普及振興に大きな功績を残されました。



優秀選手賞 さとう ともき 佐藤 智貴くん (15歳) 釧路スケート連盟

佐藤くんは、平成27年2月、長野市オリンピック記念アリーナ (エムウェーブ) で開催された平成26年度全国中学校スケート大会スピードスケート競技に出場。5,000mで第2位、3,000mで第3位の成績を収めました。

現在、釧路北陽高等学校1年生に在籍。今後の活躍が期待されております。

釧路市体育協会創立70周年記念 第70回釧路市秋季体育祭総合開会式

日々の練習の成果を存分に

8月25日(火)、釧路市体育協会などが主催する第70回釧路市秋季体育祭総合開会式が、湿原の風アリーナ釧路で開かれました。昨年の優勝チームによる優勝杯返還の後、大会副委員長である藤澤隆司釧路市教育委員会生涯学習部長は「スポーツに寄せる皆様の熱意がスポーツ都市釧路のエネルギーであり、釧路市の益々の発展につながる」と激励。張江大会委員長は「釧路市体育協会が節目の創立70周年を迎えた。少子・高齢のこの時代だからこそ、誰もがスポーツを楽しんでほしい」と呼びかけました。

出場者を代表し、釧路市少林寺拳法協会所属の藤田龍成選手(青陵中3年)が「一生懸命を胸に、正々堂々、全力で挑む」と力強く選手宣誓しました。



大会委員長



開会式場正面



選手宣誓



優勝杯返還



大会副委員長

トランポリンで輝いて

鈞路トランポリン協会

会長 戸田 悟



初心者からあらゆる世代が活動できるスポーツとして、経験は他のスポーツにも活かせるのがトランポリンであるとの理解が深まっております。

加盟人数は270名で全道大会連覇と共に全日本においても上位入賞を努力で勝ち取る選手が多数活躍しております。

湿原の風アリーナ鈞路を活動拠点として、3団体7クラブが切磋琢磨し裾野を拡大して子供たちの意欲と努力から結果を出して前に進む育成の大きな役割を担っている意識を強く持ち、礼節と共に社会に順応する力を高め、全道・全日本の大会に多くの選手が出場できる環境づくりを進めています。

協会の大会は年2回、全道予選会が2回、少年団との連携大会が年1回、検定が年2回、競技力向上合宿が年2回と指導者講習会も実施してレベル向上を図っております。

今年の全国・全道大会の誘致結果は、8月に全日本学生トランポリン競技選手権大会、9月に北海道年齢別トランポリン競技選手権大会が湿原の風アリーナ鈞路で実施。世代交代の中、若い力による運営と共に夢を叶えて輝いて育っていく環境に努めております。

バウンドテニスで心地よい汗を流しましょう

鈞路バウンドテニス協会

会長 佐藤 今朝義



当協会は、昭和60年に創立され、現在3つのサークルが登録しております。会員36名が日頃の運動不足解消に、ストレス解消に、体力維持・向上に、そして技術のレベルアップにと、各自の目的に合わせて活動しているところです。

バウンドテニスは、広いスペースがなくても楽しむことができ、しかも十分な運動量が得られるスポーツとして考案されたものです。

今、人々のスポーツの楽しみ方は多種多様で、競技に選手として参加する、観戦する、習う、指導する、大会運営に参加するなど幅広くなっています。

そして、このようなスポーツ活動を通じての素晴らしい出会いと新たなコミュニケーションは、人生に潤いを与え、私たちの生活に欠かせない大切な要素として、大きな役割を果たしています。

当協会では、初心者講習会や親睦を深める親善交流大会や選手権大会を毎年開催しております。

バウンドテニスは「生涯の友」。この楽しさあふれるスポーツで、ともに心地よい汗を流しませんか。

20年目に向かって

鈞路フットサル連盟

理事長 久保下 智之



設立から今年度10年を迎える鈞路フットサル連盟は現在大人の鈞路フットサルリーグを一年通して開催しており、設立当初から今日までずっと20チーム以上の

参加で3部に分けて開催しています。

1部は鈞路におけるトップリーグなので、強くてうまい6チームが毎週しのぎを削っています。そのレベルは全道大会で準優勝するほど高いのです。2部と3部は楽しむことを目的としたチームが所属しており、目的別にプレーしています。また数年前から小学生、特にフットサル大会が少ない学年を中心に大会を主催して将来にわたってのプレイヤー育成を進めています。

私たちはこの地域でフットサル人気が続けばいい、それだけ考えて活動しているわけではありません。全国的に見てもスポーツが盛んな街はそれだけで大人も子供も街の人がとても元気で、他の街からも良いイメージで受け取ってもらえます。

それがとても大事だという事を伝えながら、そして他のスポーツと共にフットサルもその一翼を担っていきたくと考えています。

創立30周年を迎えて

鈞路市スポーツ少年団

本部長 横地 敏光



本年は鈞路市スポーツ少年団が創立されてから30年という節目の年です。今年度は61団体の単位団にご登録いただき、指導

者約250名、団員約1,400名の陣容となりました。少子化の影響は大きく、団員数の減少も年々目立っており、単位団の統廃合も珍しいことではなくなっている現状です。

一方で、そのような中でも全道大会等で優秀な成績を残すなどの成果も出ており、単位団それぞれが異なる課題を持ちつつも日々活動が充実していることを実感しております。

6月には毎年恒例の体力テスト会を湿原の風アリーナ鈞路で開催し、指導者協議会や母集団の方々の手厚いご協力もあり、100名を超える団員の方々にご参加いただきました。

さらに、今年は創立30周年を記念し、記念誌の発行、記念式典の開催をはじめ、例年行っているスポーツ交流会やリーダースクールなどもより充実した内容を予定しております。またとないこの節目の時を少年団のさらなる発展、団員のさらなる成長のきっかけにして参りたいと思います。

平成27年度全国中学校体育大会

バドミントン大会

釧路市で12年ぶりとなる全国中学校体育大会が8月20日、湿原の風アリーナ釧路で開催されました。種目はバドミントン競技。

開会式では渋谷剛樹（白糠茶路）、高橋美月（釧路大附）の両選手が力強く選手宣誓をしました。

47都道府県を勝ち抜いた全国の強豪、約1,000名が日本一をめざし、4日間にわたる熱戦を展開しました。

釧路勢は初戦敗退でしたが、その健闘ぶりに大きな声援が送られました。



日韓交正常化50周年記念 東日本大震災復興支援大会

日韓実業団卓球定期戦 日本シリーズ

8月4～5日に湿原の風アリーナ釧路で行われた本定期戦は、本年度で第19回を数え、北海道では初めての開催となりました。

日本と韓国の友好と技術向上を目的に1984年から始まり交互に開催しております。今回も両国の実業団選手の各16名がトップレベルのゲームを市民に披露しました。

観戦に訪れた地元中学卓球部の生徒は、昨年の全日本選手権2位選手や全日本社会人選手権覇者の国内最高峰の技術に目を見張っていました。



平成27・28年度 釧路市体育協会役員

平成27年度評議員会において、はじめに理事選出団体の選出及び専務理事の互選がなされました。その後、役員選考委員会による会長・副会長の原案提示があり、満場一致で推挙されました。

役職名	氏名	選出団体
名誉会長	清水 幸彦	ハンドボール、バウンドテニス(名誉会長)
会長	張江 悌治	陸上(会長)、ソフトボール(会長)
副会長	栗林 定徳	スケート(会長)
副会長	北村 剛	阿寒支部(支部長)
副会長	横地 敏光	体操(会長)、陸上(副会長)
副会長	足立 功一	アイスホッケー(会長)
副会長	菅原 賢司	柔道(会長)
専務理事	高橋 優夫	学識経験者
理事	八幡 一義	阿寒支部(副支部長)
理事	眞籠 敏夫	音別支部(支部長)
理事	大道 裕昭	陸上(理事長)
理事	染谷 友久	軟式野球(理事長)
理事	中村 政男	ソフトテニス(副会長)
理事	小松 重知	卓球(理事長)
理事	武田 和夫	バレーボール(副会長)
理事	吉田 省史	バスケットボール(理事長)
理事	小野崎健悟	スキー(副会長)
理事	伊藤 寿章	柔道(理事長)
理事	平田 政之	スケート(理事長)
理事	石川 元也	剣道(参与)
理事	三森 敏司	サッカー(理事長)
理事	坂本 久吾	ソフトボール(理事長)
理事	山辺 文彰	ハンドボール(理事長)
理事	澤崎 晋司	アイスホッケー(理事長)
理事	谷口 秀生	バドミントン(理事長)
理事	福光 壽男	空手道(理事長)
理事	佐々木勝成	パークゴルフ(顧問)
監査	橋本勢津子	弓道(会長)
監査	佐藤 茂樹	ボウリング(副会長)
評議員	加盟団体から各1名 阿寒・音別支部から各2名	

編集後記

善いことが長く続くと、それは伝統と呼ばれる。創立70周年を向かえた当協会は、釧路市のアマチュアスポーツ団体を統括してきた組織である。▼昭和21年、釧路の大地に芽吹き、星霜ここに70年。スポーツをこよなく愛した先達が大志を抱き伝統を創り上げた。あたかも、天空めざしすつくと伸び立つ孟宗竹のごとくである。▼竹に節がある。そのため、しなやかで折れにくい。竹の引つ張り強度は鉄筋の二、三倍とも言われ、節の頑強さを雄弁に物語る。また、日本の伝統的和弓は、弦を引くとき強大な力が加わっても節があるため折れることなく、よくしなる。▼一方、節と節の間にある中空の部分は一「世(よ)」と呼ばれ、その空間は豊かさの根源としての力、すなわち生命を生み出す場とされてきた。「竹取物語」で竹の節と節との間に姫がいたのは、この意味からとされる。▼竹は、節と世を順に積み重ねながら、より高くより逞しく育っていく。下部の節が軟弱な仕上がりだったなら、その上部の世は脆弱なものとなり、世間の荒波や時代の変化にも柔軟な対応はできない。▼体協加盟会員一万人。みなぎるスポーツの力を今こそ結集して各種事業を進めていくことが、記念すべき創立70周年の節目を大きく確固たるものと育て上げていくこととなる。

